

「最大のときは『無関心』」

和光市 四年 小泉 綾香（こいずみ あやか）

夏休みに兄と母と3人で、リサイクル・プラザJBの見学に行ってきた。リサイクル・プラザJBは、カン、びん、ペットボトルの、リサイクル工場だ。当日の気温は30度をこえていて、とても暑い日だった。リサイクル・プラザJBには、一日に30tものふくろがトラックで運ばれてくる。それを、人の手で一つひとつ分べつしていく。電球、電池、こわれたかさも運ばれてきていた。ここでのリサイクルに関係のないものは、全体の10パーセントもあるそうだ。特に、電球がまぎってしまふと、分べつ作業をしているときに、ガラスのはへんが飛んでくることもありあぶないのだ。

私は、見学中にとても気になることがあった。工場は、とってもきれいでゴミひとつ落ちてないのに、少しだけ、近所のゴミ捨て場のようなにおいがしていた。私達に身近な、自動はん売機の横においてある回収箱の中身が、リサイクル・プラザJBに集められている。ということは、実は私たちのマナーが原因だったのだ。工場内でのケガやにの発生の原因を知り私はショックを受けた。それでも、私たち一人ひとりが気をつければ、工場内でのケガやにの発生をへらすことだってできることもわかった。回収箱に、関係のないものは入れないこと。それから、自動はん売機の飲料を飲むときには、最後の1てきまで飲み残しをしないで回収箱に入れること。当たり前だけど、このふたつはとっても大事なことだ。一人ひとりが回収のルールを守っていかないと、その後のリサイクルしよ理をする人達によ計な手間がかかってしまう。

「だれかがやらなくては、ならないこと。」リサイクル・プラザJBの中山さんの言葉が、ずっとわすれられない。

私のクラスでは、社会の授業で、ゴミの仕組みを学んでいる。できる人だけで、朝の登校の時にゴミを拾っている。道にはカンやびんやペットボトルがたたくさん落ちている。自動はん売機の横においてある回収箱に入りきらなかった

ものは、周りでちらばっていた。よごれた回収箱のまわりでは、鼻をつくようないやなおいがしていた。学校に着くころには、ビニールぶくろいっぱいに、カン、びん、ペットボトルが集まる。マナーを知らないと、私たちの町は、ごんごん汚れていく。私たちの町とリサイクルの会社は、回収箱でつながっている。ちゃんと分べつすれば、ゴミではなくしげんに生まれかわれる。

リサイクル・プラザJBに見学に行けてよかった。知らないことが、私にはまだまだたくさんあることも気がついた。

「最大のできは『無関心』である」

とマザーテレサが言っていた。このことは、リサイクルにも当てはまると思う。いつまでもリサイクルのことに関心を持ち続け、人まかせにしない大人になりたい。